

# 令和4年度馬獣医療実態調査

【報告書】

調査概要	P2
------	----

Summary	P4
---------	----

<調査結果詳細>

1.飼育馬の施設等の概要	P9
--------------	----

2.馬の飼養衛生管理基準の遵守状況	P16
-------------------	-----

3.飼育馬の感染症予防対策の状況	P23
------------------	-----

4.ワクチン接種状況と講習会に期待すること	P26
-----------------------	-----

5.2016年度～2022年度 頭数・用途・導入元・年齢把握	P31
--------------------------------	-----

---

# I .調査概要

# 調査概要

調査目的	<p>我が国の馬は、多様な形態で飼育されている。</p> <p>しかし、馬インフルエンザ等の伝染病は、馬の種類に関係なく共通して感染することから、本会では馬感染症の予防対策の一環として、「馬インフルエンザワクチン接種費の一部助成」「馬飼養衛生管理技術等の講習会の開催」や「馬の健康手帳の無償配布」を実施し、馬飼育者の飼養衛生管理を向上させたいと考えている。</p> <p>今回、これら予防対策をより効果的なものとするため、馬獣医療実態調査を実施する。</p>
調査手法	<p>郵送調査 (各都道府県、畜産団体等を通じて、対象者に協力依頼文書及びアンケートに協力を願い調査を行う)</p>
対象者条件	全国の馬飼育管理者
回収数	馬飼育管理者：885サンプル
調査期間	2022年11月1日（火）～11月30日（水）
備考	※報告書スコア n=30未満は参考値として、グレーハッチング

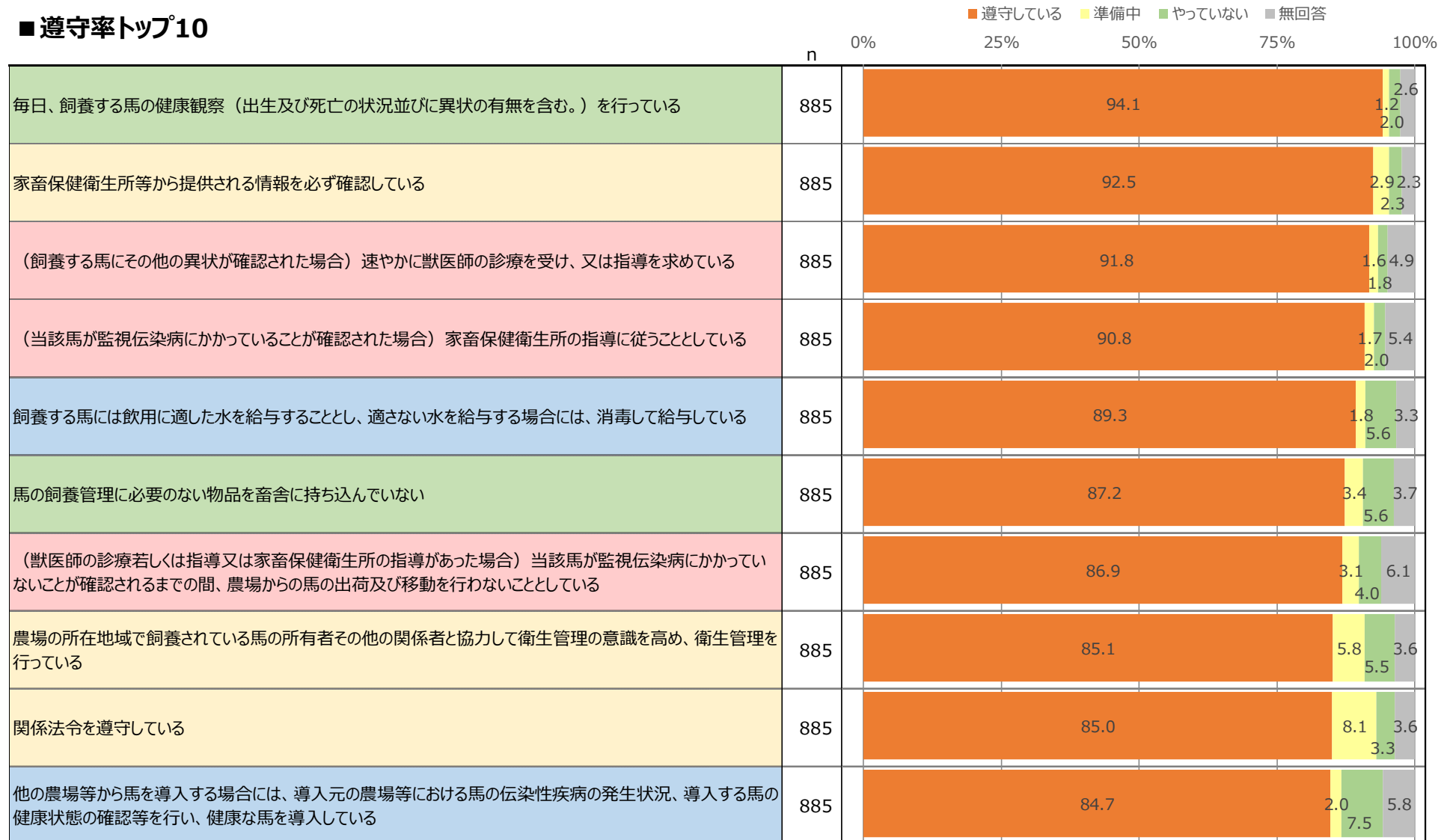
---

## II .Summary

# Summary①-1 馬の飼養衛生管理基準の遵守状況【トップ10】

「日頃の健康観察」「異常時・伝染病疾病時の対応」「家畜保健衛生所等の情報確認」に関しては、  
 大多数が「遵守している」と認識

## ■ 遵守率トップ10



色付けの定義

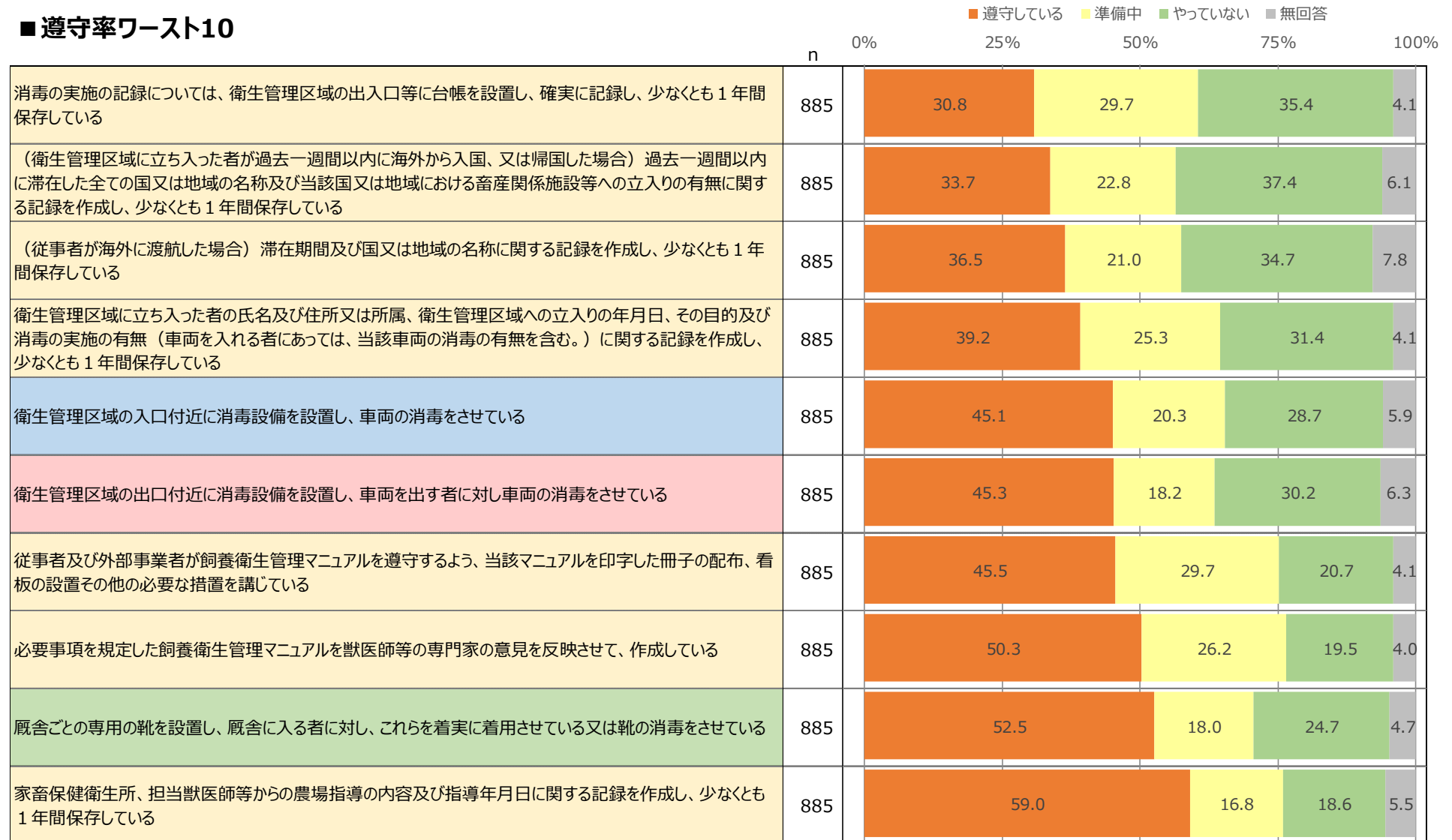
- I 家畜防疫に関する基本事項
- II 衛生管理区域への病原体の侵入防止
- III 衛生管理区域内における病原体による汚染拡大防止
- IV 衛生管理区域外への病原体の拡散防止

(単位: %)

# Summary①-2 馬の飼養衛生管理基準の遵守状況【ワースト10】

「記録の作成及び保管」「車両・靴の消毒」「マニュアルの作成及び従事者等への周知徹底」に関連する項目は遵守率が低い傾向であり、啓蒙が必要といえる

## ■ 遵守率ワースト10



色付けの定義

- I 家畜防疫に関する基本事項
- II 衛生管理区域への病原体の侵入防止
- III 衛生管理区域内における病原体による汚染拡大防止
- IV 衛生管理区域外への病原体の拡散防止

(単位: %)

## Summary② 感染症予防対策・ワクチン接種の状況

### ■ 感染症予防の対策方法は？

- ・日常・・・9割以上が「馬房にいるときの馬の様子」、「餌を与えた際の食欲等」を観察
- ・異常時・・・9割弱が「すぐに診療獣医師に相談」

### ■ ワクチン等の予防管理の状況は？

- ・一部の馬にのみ接種している方等も含めると**7割強がワクチンを接種**  
ただし、「ワクチン接種を全頭実施している」方は、5割半ばに留まる

### ■ 馬インフルエンザワクチンの接種状況は？

- ・一部の馬にのみ接種している方や流行時のみ接種している方も含めると、  
**7割強が馬インフルエンザワクチンを接種**  
「ワクチン接種を全頭実施している」方は6割弱という結果であった

### ■ 馬鼻肺炎ワクチンの接種状況は？

- ・一部の馬にのみ接種している方を含めても**馬鼻肺炎ワクチンの接種率は7%**  
(約半数が繁殖牝馬を飼育していないことを考慮しても、接種率は低め)



接種しない理由をみると、「必要ない」「知らなかった」「どこに頼めばいいかわからない」といった回答もみられるため、  
「ワクチン接種がなぜ必要なのか」「どこで受けられるのか」は引き続き周知が必要

### ■ 講習会等で聴いてみたい内容は？

- ・「馬の疾病と栄養管理対策」「馬の栄養管理情報」「馬の飼養衛生管理の情報等」を求める声が多くみられた



---

## Ⅲ. 調査結果詳細

---

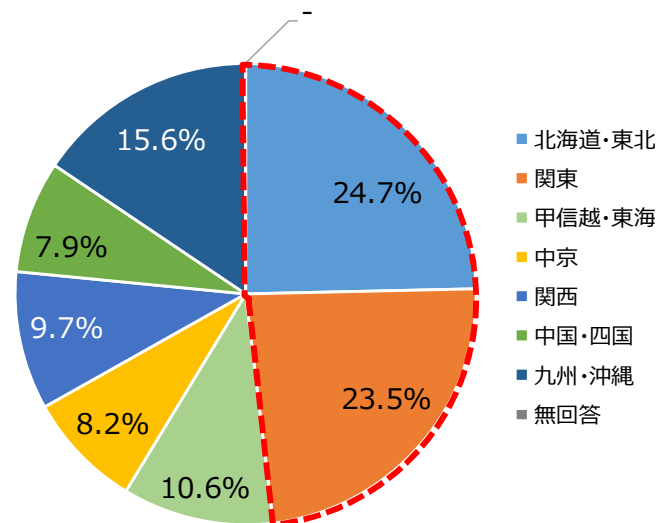
# 1. 飼育馬の施設等の概要

# 飼育馬施設の所在地／回答者の役職

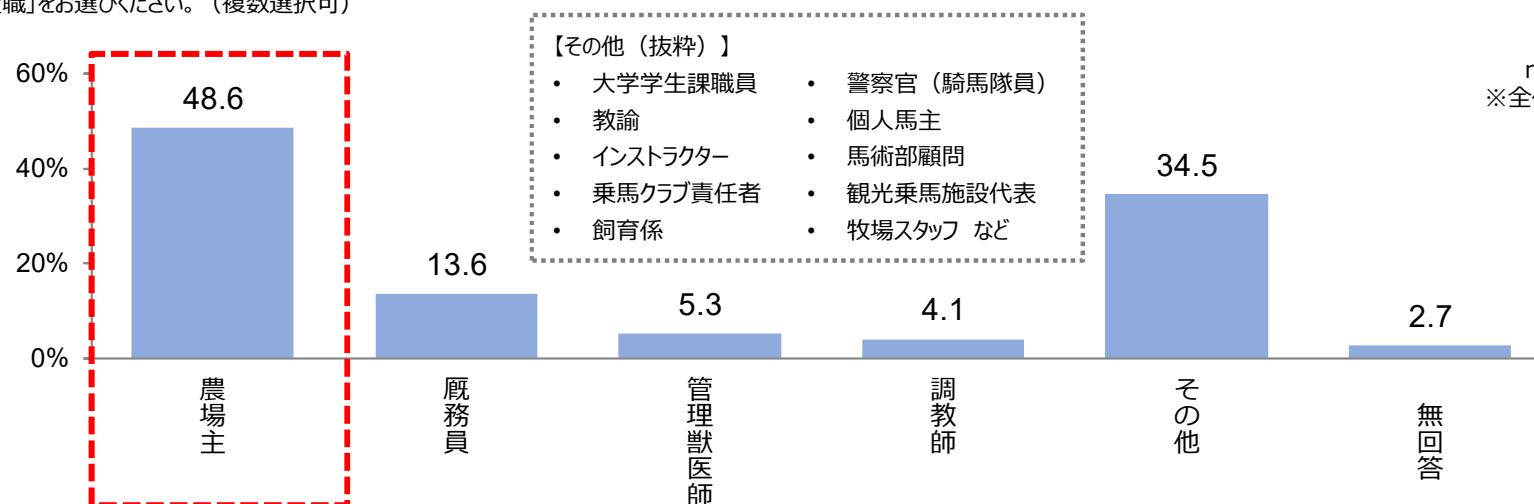
- 飼育場施設の住所地は「北海道・東北」が25%、「関東」が24%で、この2地域で約半数を占める。
- 回答者の役職は、「農場主」が49%で突出。

n=885 (単位：%)

F0. あなたの飼育馬施設の所在地をご記入してください。(1つ選択)



Q1. ご回答者の「役職」をお選びください。(複数選択可)



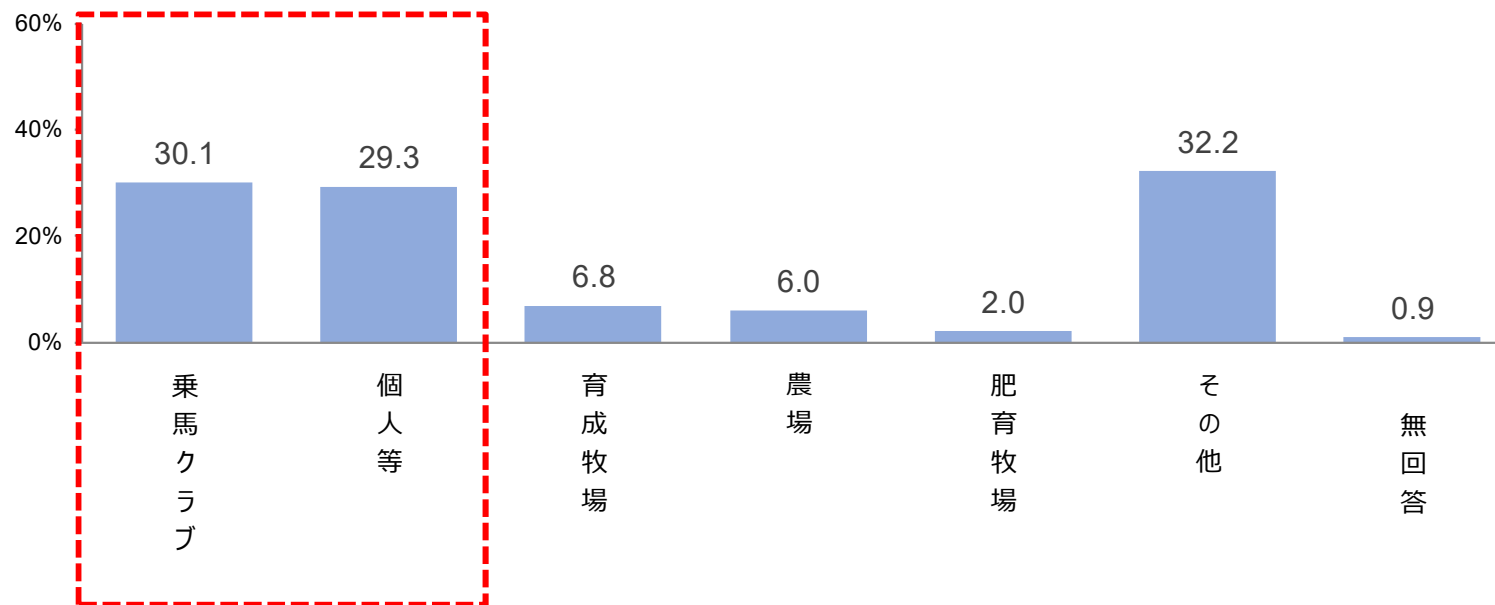
n=885 (単位：%)  
※全体スコアにて降順ソート

# 施設の種類

➤ 施設の種類は、「乗馬クラブ」が30%、「個人等」が29%で上位。

n=885 (単位：%)  
※全体スコアにて降順ソート

Q2. 施設の種類についてお伺いします。(複数選択可)



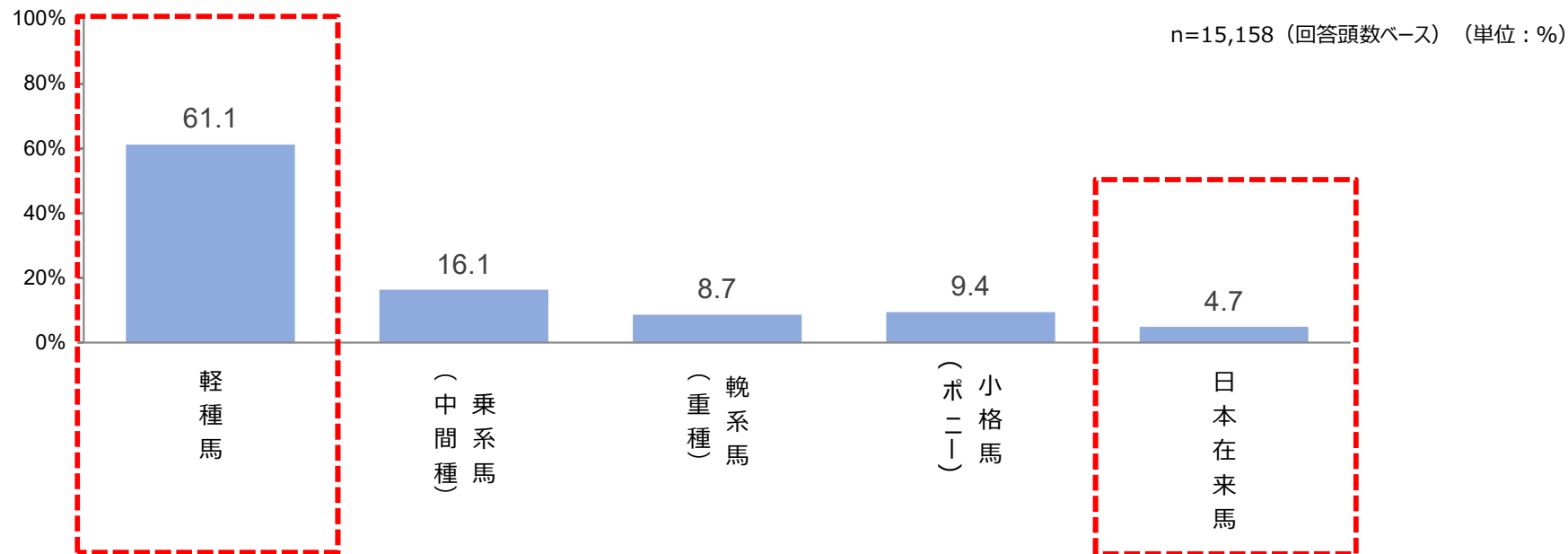
## 【その他 (抜粋)】

- 動物園
- 観光牧場
- 福祉施設
- ペット
- 養老馬施設
- 保育園
- 小学校
- 農業高校
- 大学馬術部
- 神社境内 など

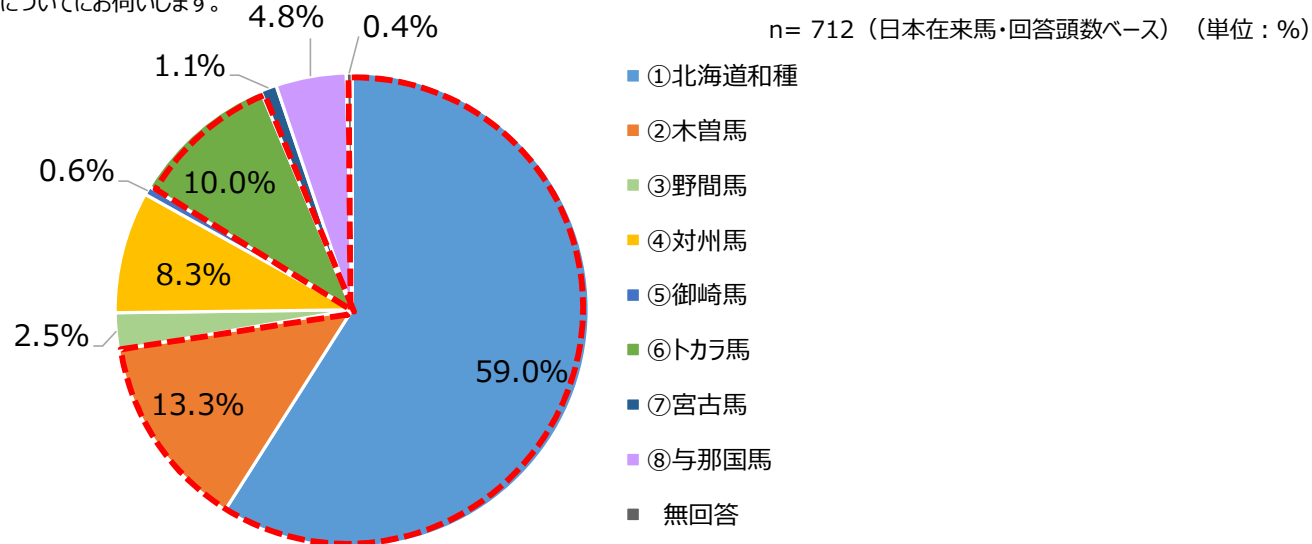
# 飼育馬の種類・日本在来馬の品種

- 飼育馬の種類は、「軽種馬」が61%で最も多い。「日本在来馬」は5%であった。
- 日本在来馬の種類では、「北海道和種」が59%で最も多く、次いで「木曾馬」が13%、「トカラ馬」が10.0%と続く。

Q3-1. 飼育馬の頭数についてお伺いします。馬の種類ごとに頭数をご記入ください。



Q3-2. 日本在来馬を飼育されている方へ、前設問の頭数の内訳についてにお伺いします。日本在来馬の頭数を品種別にご記入ください。



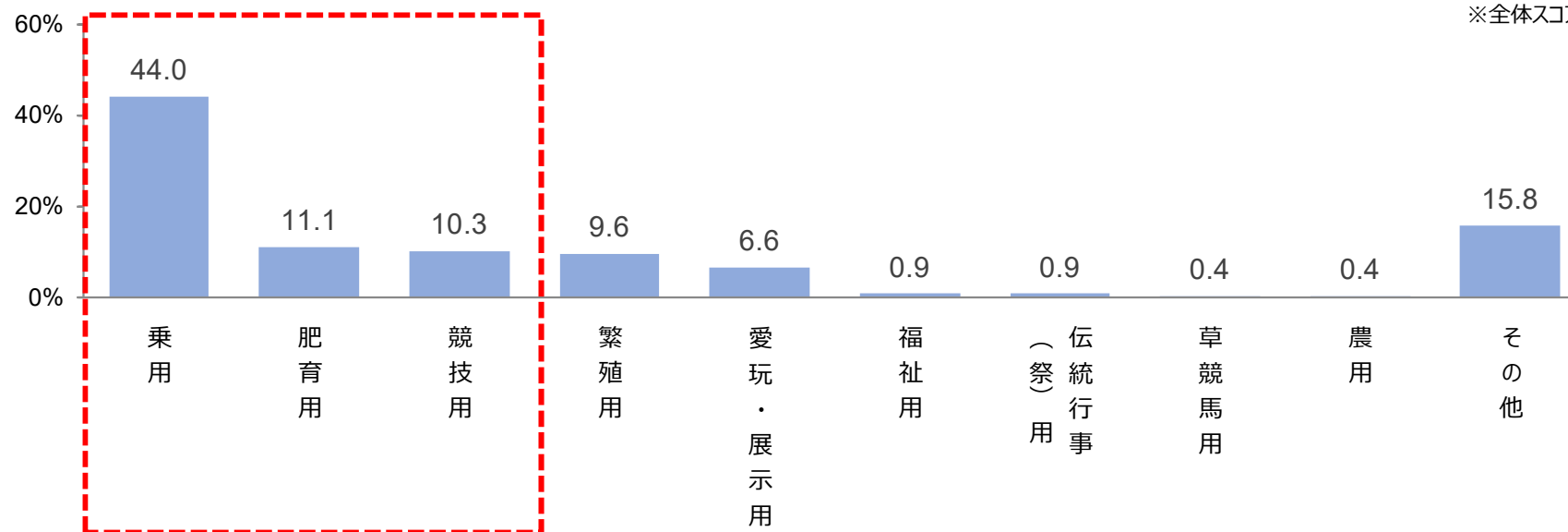
# 過去1年間の飼育馬の用途

➤ 過去1年間の飼育馬の用途は、「乗用」が44%で突出。次いで「肥育用」が11%、「競技用」が10%と続く。

Q3-3. 過去1年間における用途別頭数について、すべてご記入ください。

n= 16595 (回答頭数ベース) (単位: %)

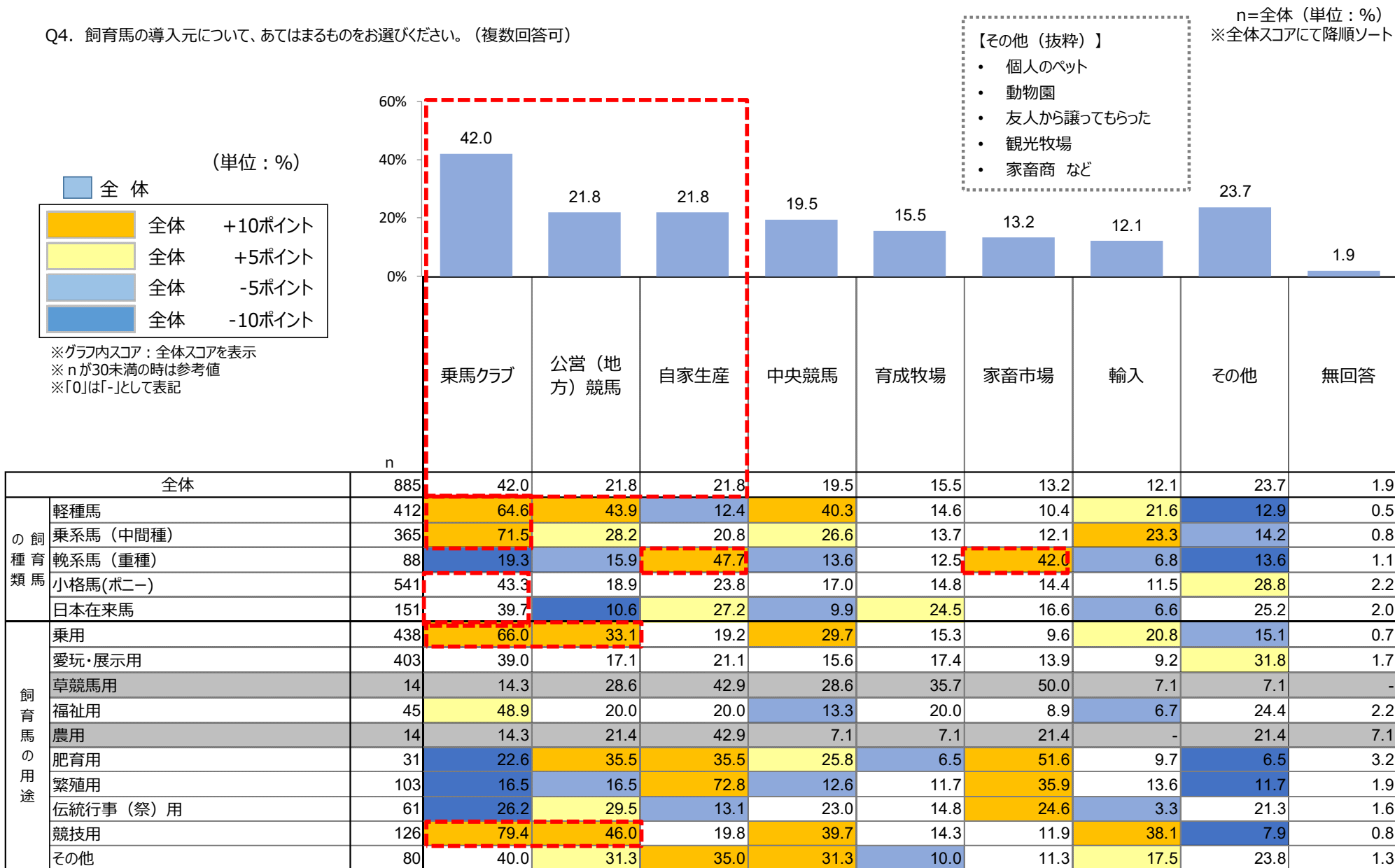
※全体スコアにて降順ソート



# 飼育馬の導入元

- 飼育馬の導入元は「乗馬クラブ」が42%で最も多い。次いで「公営（地方）競馬」「自家生産」が22%で続く。
- 種類別で見ると、ほぼすべての種類において「乗馬クラブ」がメインの導入元だが、『軌系馬（重種）』は「自家生産」「家畜市場」が主である。
- 用途別で見ると、『乗用』『競技用』は「乗馬クラブ」「公営（地方）競馬」からの導入が特に多い傾向。

Q4. 飼育馬の導入元について、あてはまるものをお選びください。（複数回答可）

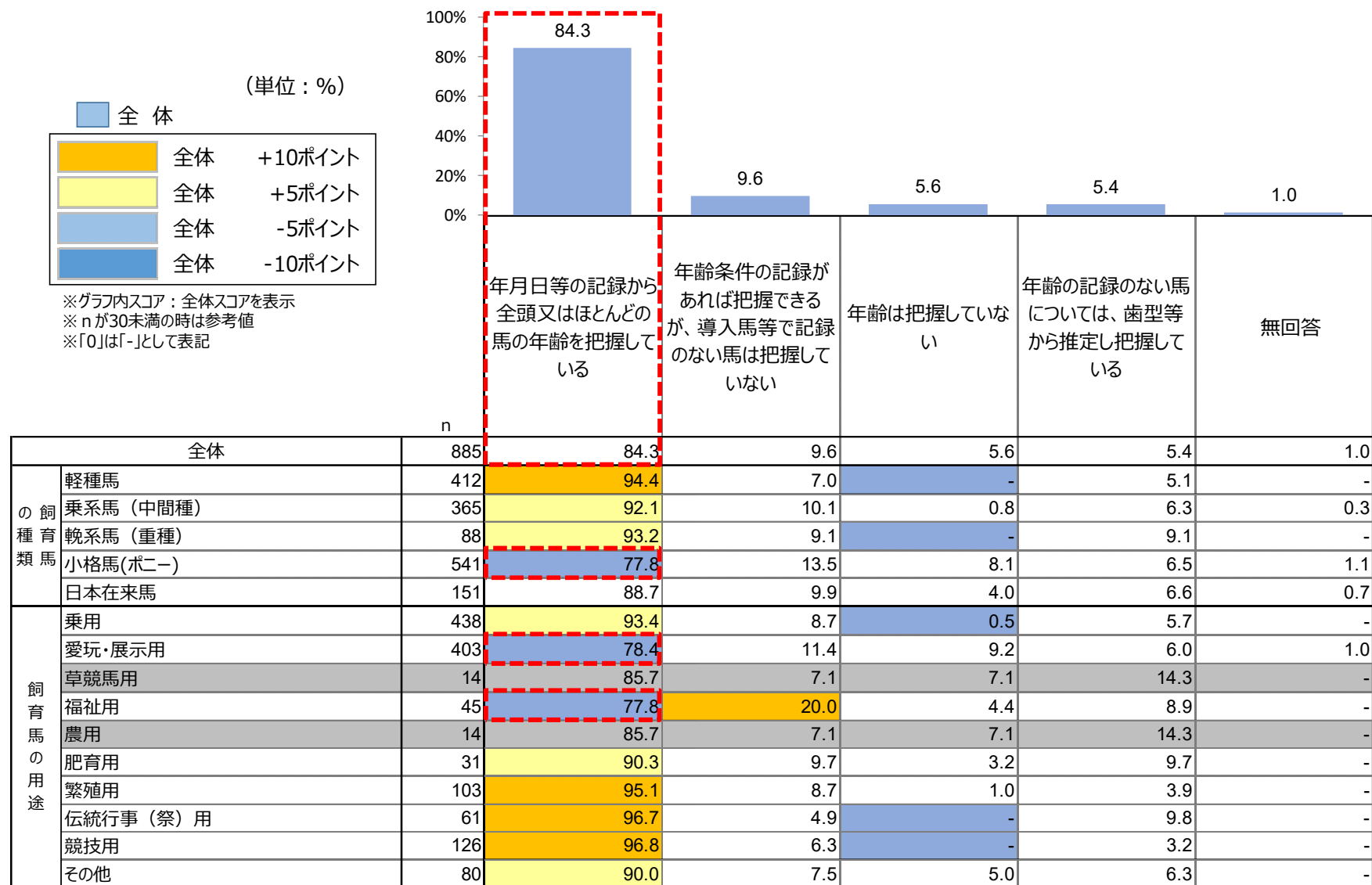


# 飼育馬の年齢把握状況

- 馬飼育管理者の大多数である84%が「全頭又はほとんどの馬の年齢を把握している」と回答。
- 種類別にみると、『小格馬』において「全頭又はほとんどの馬の年齢を把握している」と回答した方は全体より5pt以上低い。
- 用途別では、『愛玩・展示用』『福祉用』において「全頭又はほとんどの馬の年齢を把握している」と回答した方は全体より5pt以上低い。

Q5. あなたの飼育馬の年齢の把握について、あてはまるものをすべてお選びください。（複数回答可）

n=全体（単位：%）  
※全体スコアにて降順ソート





---

## 2.馬の飼養衛生管理基準の遵守状況

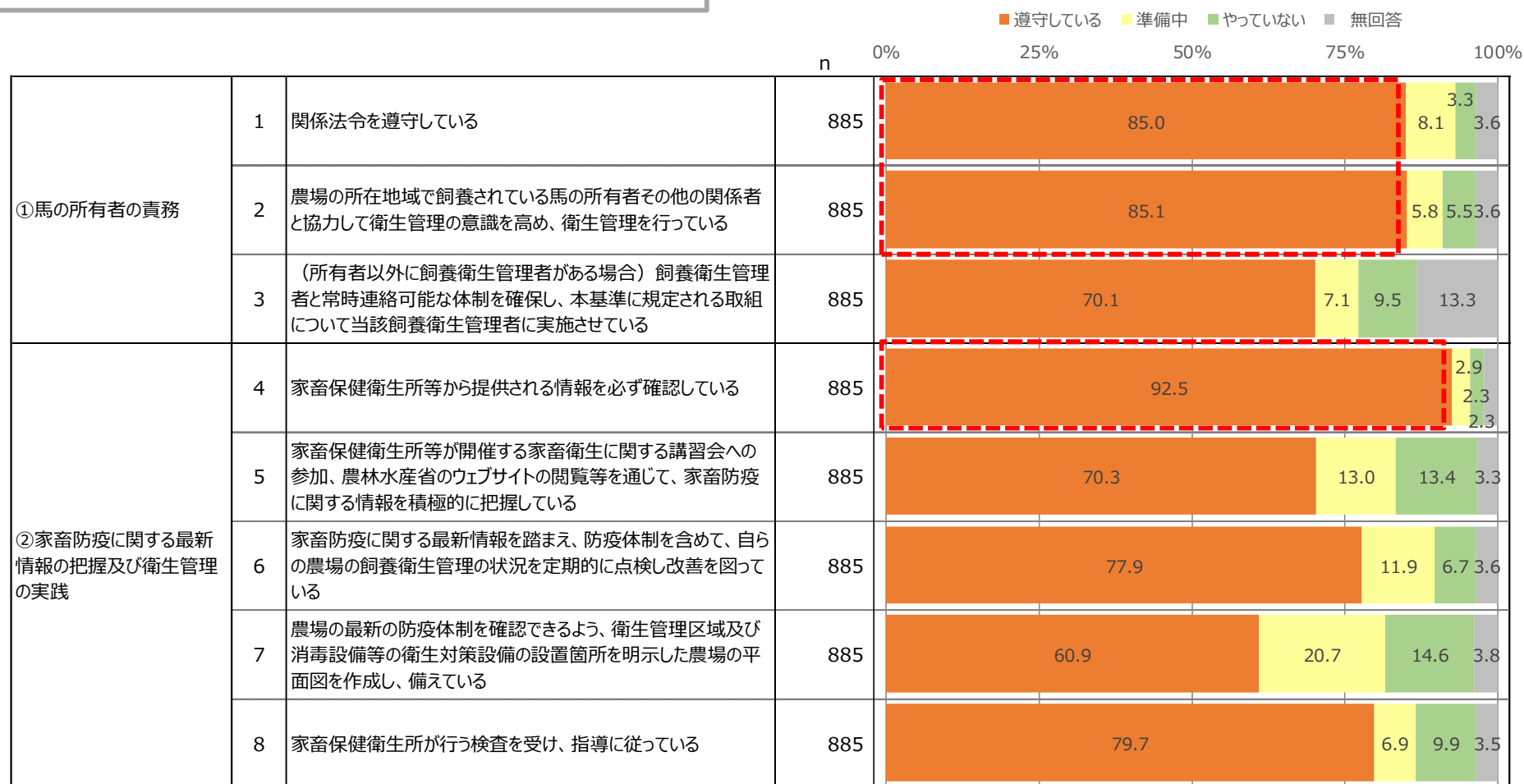
# I .家畜防疫に関する基本事項の遵守状況①

▶ 現行基準のチェックリストについて『遵守している』は、52項目のうち、【I 家畜防疫に関する基本事項】で3項目（1, 2, 4）【II 衛生管理区域への病原体の侵入防止】で2項目（30, 31）【III 衛生管理区域内における病原体による汚染拡大防止】で4項目（36, 37, 39, 43）【IV 衛生管理区域外への病原体の拡散防止】で6項目（47～52）の15項目で8割以上を占める。特に、【I 家畜防疫に関する基本事項】の「4.家畜保健衛生所等から提供される情報を必ず確認している」、【III 衛生管理区域内における病原体による汚染拡大防止】の「43.毎日、飼養する馬の健康観察（出生及び死亡の状況並びに異状の有無を含む。）を行っている」、【IV 衛生管理区域外への病原体の拡散防止】の「51.（当該馬が監視伝染病にかかっていることが確認された場合）家畜保健衛生所の指導に従うこととしている」「52.（飼養する馬にその他の異状が確認された場合）速やかに獣医師の診療を受け、又は指導を求めている」が高く9割以上を占める。

Q6. 現在、飼養衛生管理基準を遵守して、馬の飼育を行っておられると思いますが、下記のリストをチェックしながら現状把握をしてください。（それぞれ1つずつ選択）

## I 家畜防疫に関する基本事項

n=全体（単位：％）

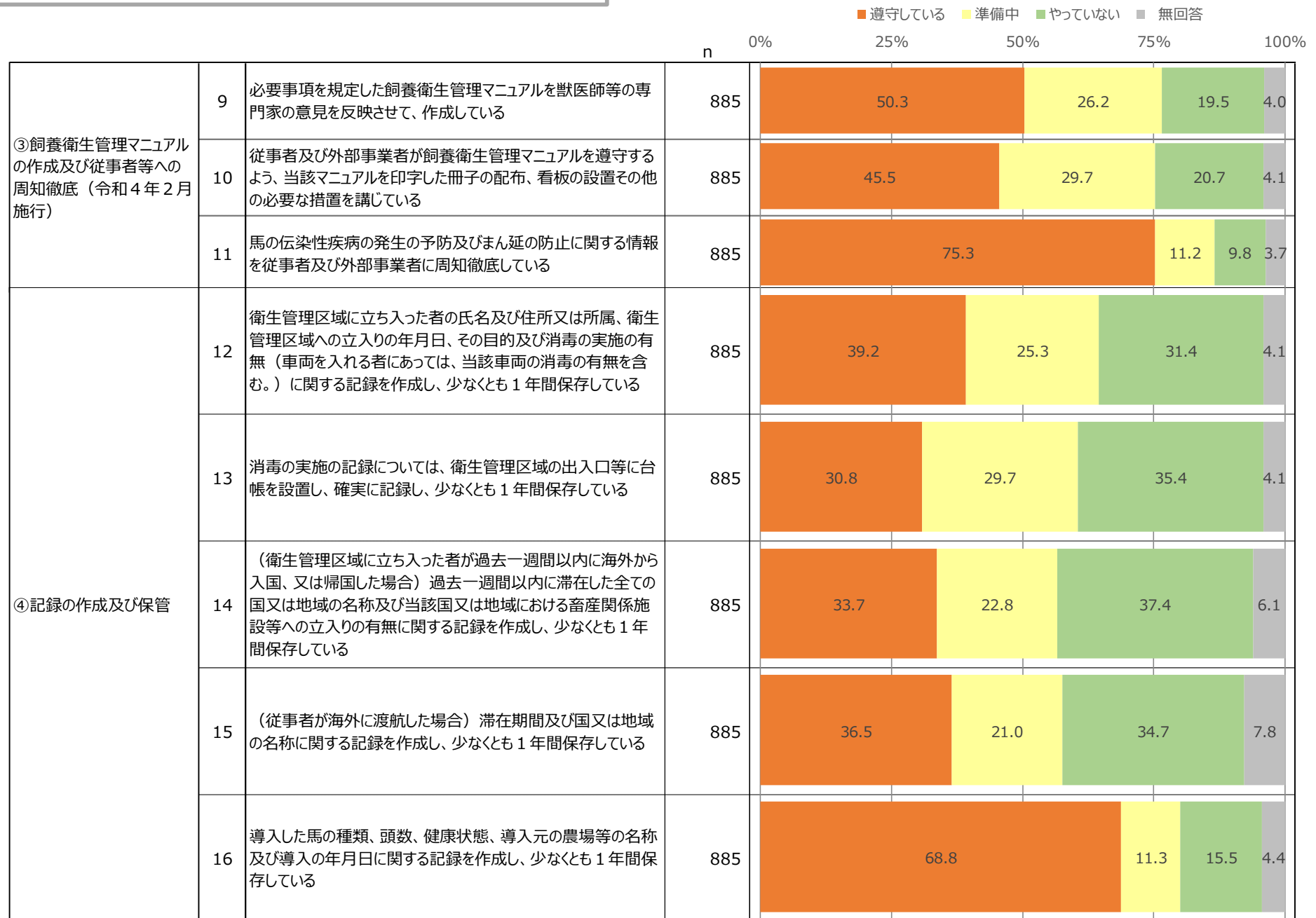


# I .家畜防疫に関する基本事項の遵守状況②

Q6. 現在、飼養衛生管理基準を遵守して、馬の飼育を行っておられると思いますが、下記のリストをチェックしながら現状把握をしてください。（それぞれ1つずつ選択）

n=全体（単位：％）

## I 家畜防疫に関する基本事項

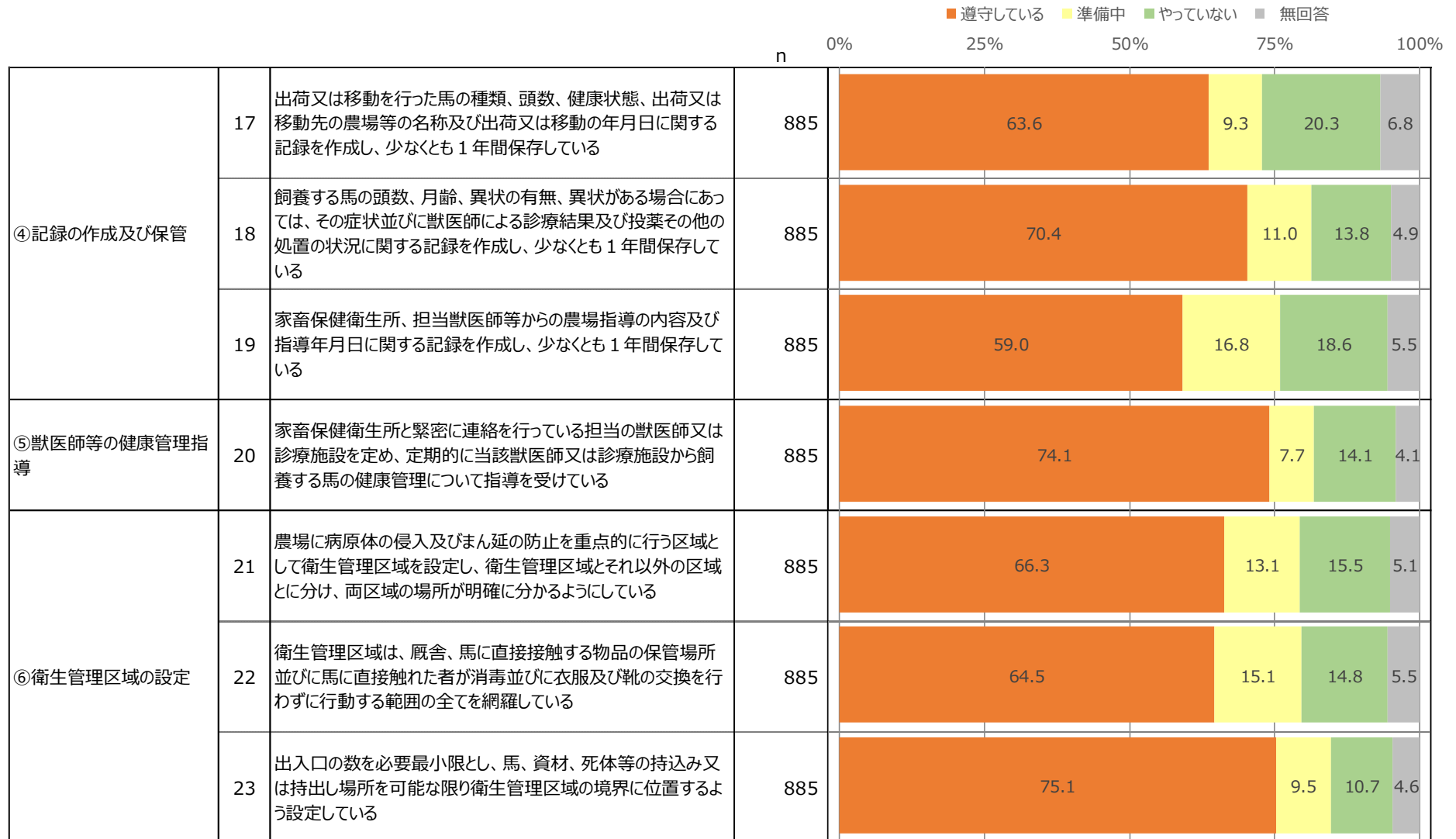


# I .家畜防疫に関する基本事項の遵守状況③

Q6. 現在、飼養衛生管理基準を遵守して、馬の飼育を行っておられると思いますが、下記のリストをチェックしながら現状把握をしてください。（それぞれ1つずつ選択）

n=全体（単位：％）

## I 家畜防疫に関する基本事項

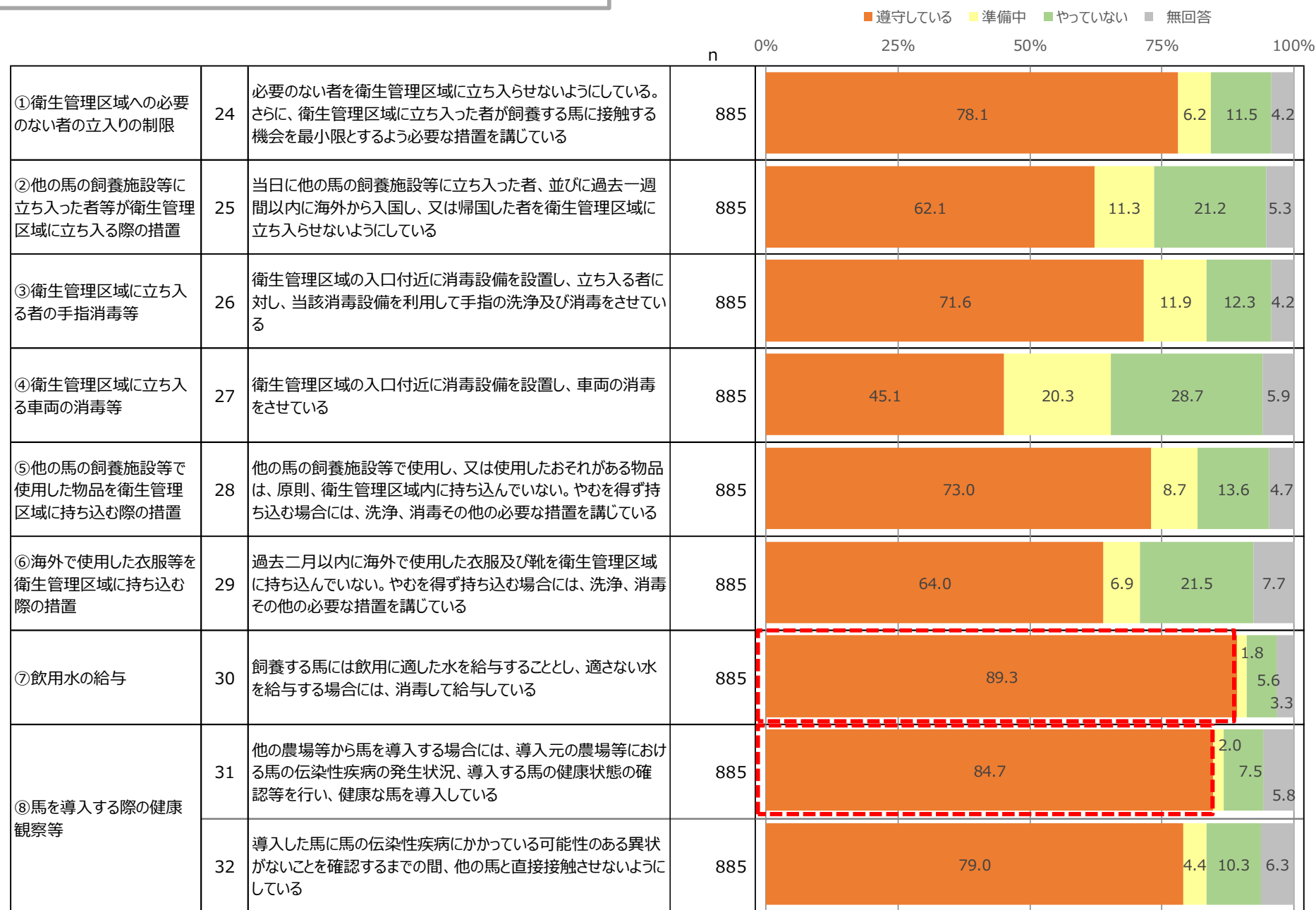


## Ⅱ. 衛生管理区域への病原体の侵入防止の遵守状況

Q6. 現在、飼養衛生管理基準を遵守して、馬の飼育を行っておられると思いますが、下記のリストをチェックしながら現状把握をしてください。（それぞれ1つずつ選択）

n=全体（単位：％）

### Ⅱ 衛生管理区域への病原体の侵入防止

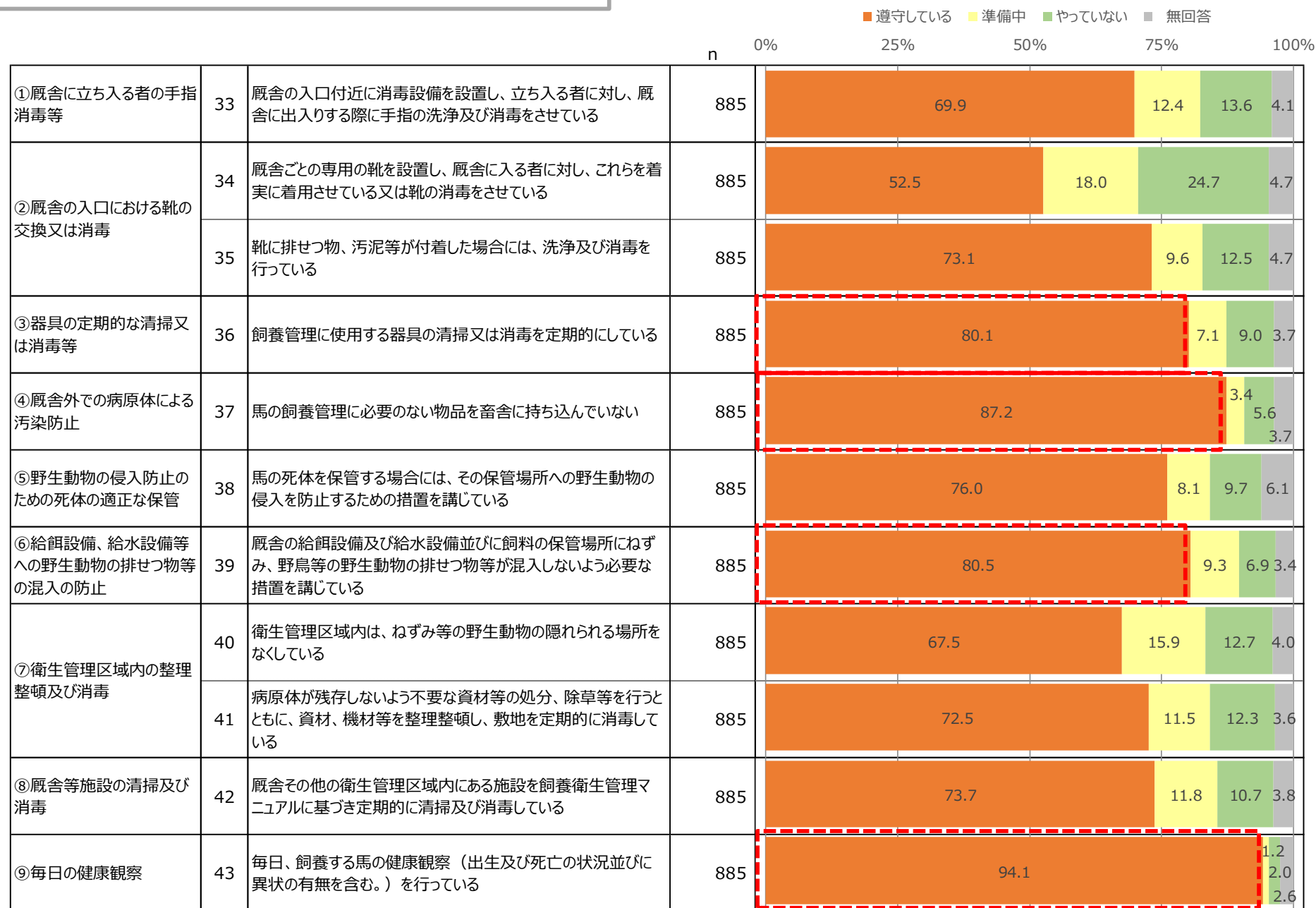


# Ⅲ. 衛生管理区域内における病原体による汚染拡大防止の遵守状況

Q6. 現在、飼養衛生管理基準を遵守して、馬の飼育を行っておられると思いますが、下記のリストをチェックしながら現状把握をしてください。（それぞれ1つずつ選択）

n=全体（単位：％）

## Ⅲ 衛生管理区域内における病原体による汚染拡大防止

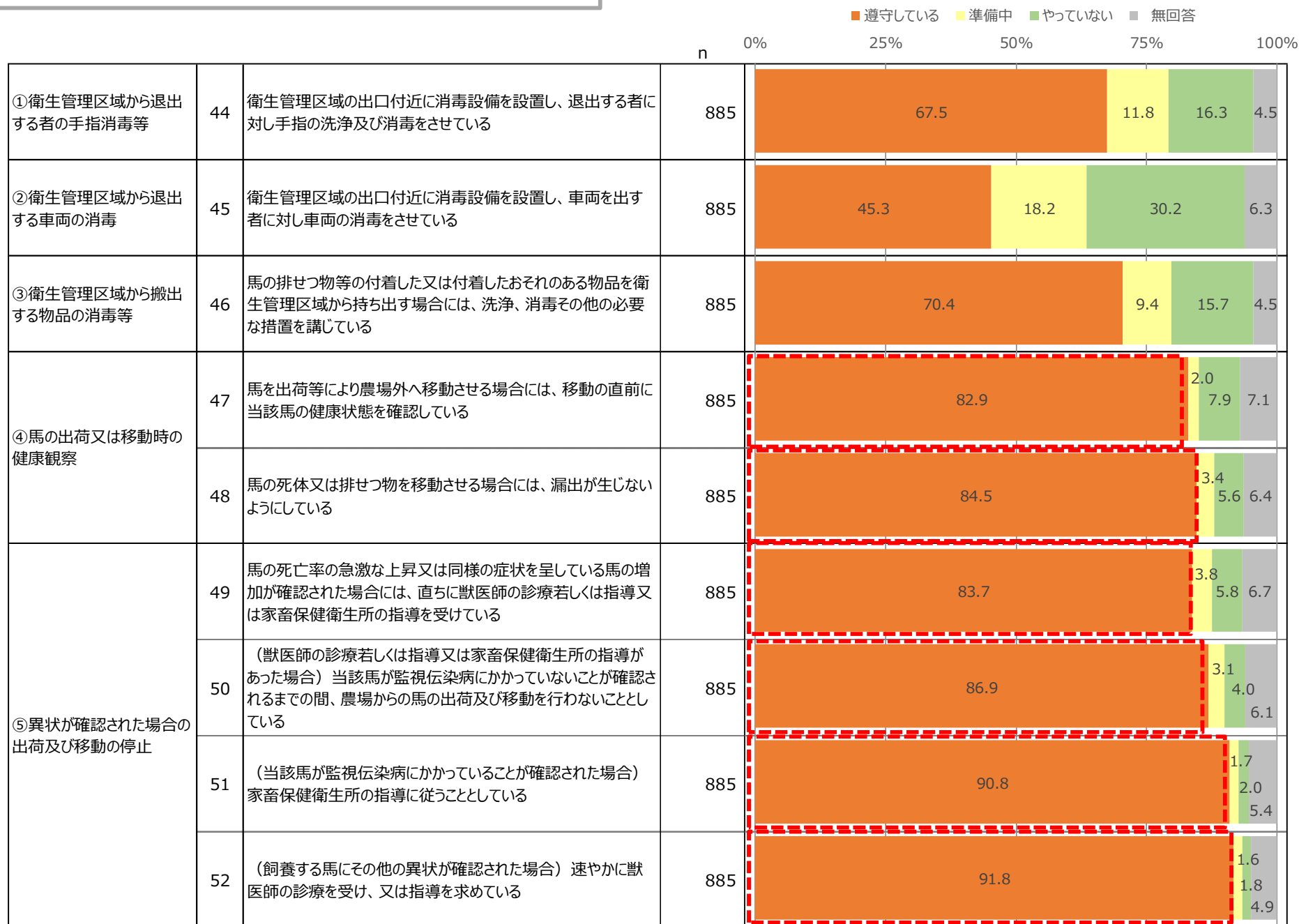


# IV. 衛生管理区域外への病原体の拡散防止の遵守状況

Q6. 現在、飼養衛生管理基準を遵守して、馬の飼育を行っておられると思いますが、下記のリストをチェックしながら現状把握をしてください。（それぞれ1つずつ選択）

n=全体（単位：％）

## IV 衛生管理区域外への病原体の拡散防止



---

### 3.飼育馬の感染症予防対策の状況

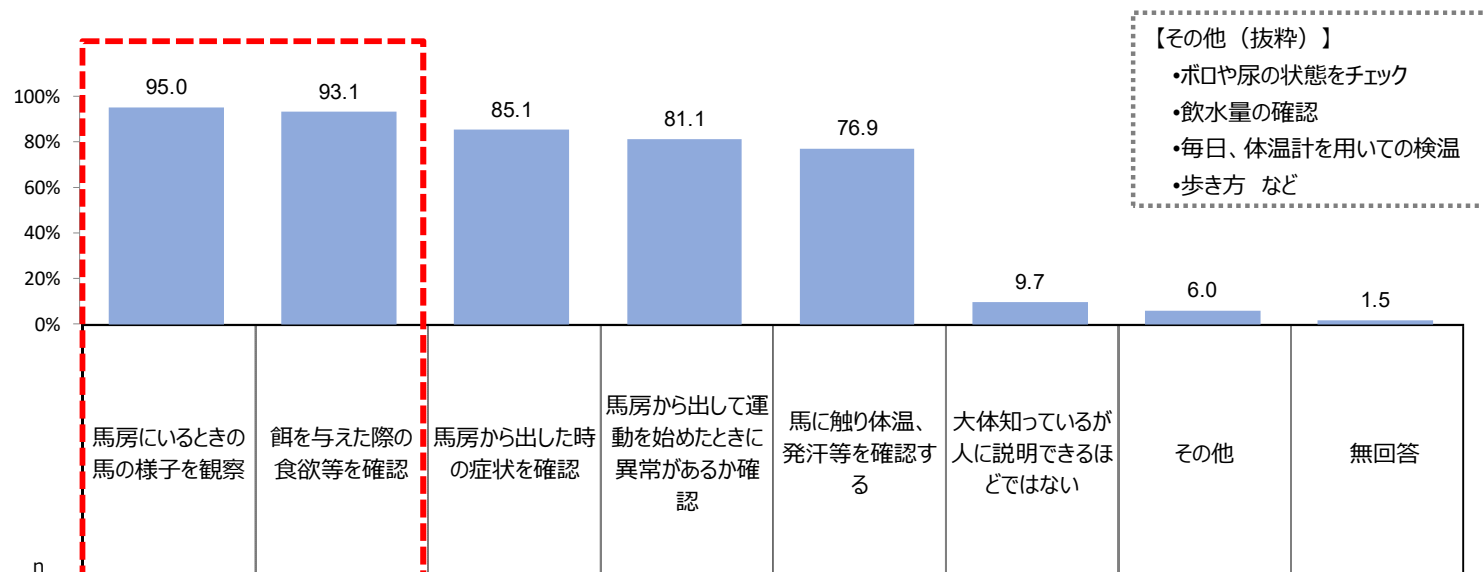


# 飼育馬の日常観察の実施方法

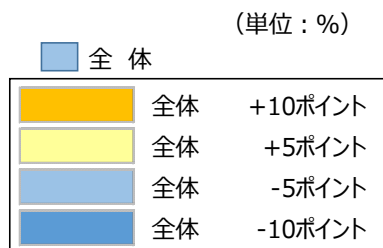
- 飼育馬の日常観察は、「馬房にいるときの馬の様子」が95%、「餌を与えた際の食欲等」が93%で高い。
- 種類別の『軽種馬（重種）』では、「馬房から出して運動を始めたときに異常があるか確認」「馬に触り体温、発汗等を確認」している方の割合が他の種類に比べて低い傾向にあり、「大体知っているが人に説明できるほどではない」との回答が19%と全体より約10pt高い。
- 用途別にみると、『福祉用』『肥育用』『繁殖用』は、『乗用』『競技用』などに比べて、一部日常観察が行き届いていない様子もうかがえる。

Q7. 飼育馬の日常観察はどのように実施していますか。（複数選択可）

n=全体（単位：%）  
※全体スコアにて降順ソート



- 【その他（抜粋）】
- ボロや尿の状態をチェック
  - 飲水量の確認
  - 毎日、体温計を用いての検温
  - 歩き方 など



※グラフ内スコア：全体スコアを表示  
※nが30未満の時は参考値  
※「0」は「-」として表記

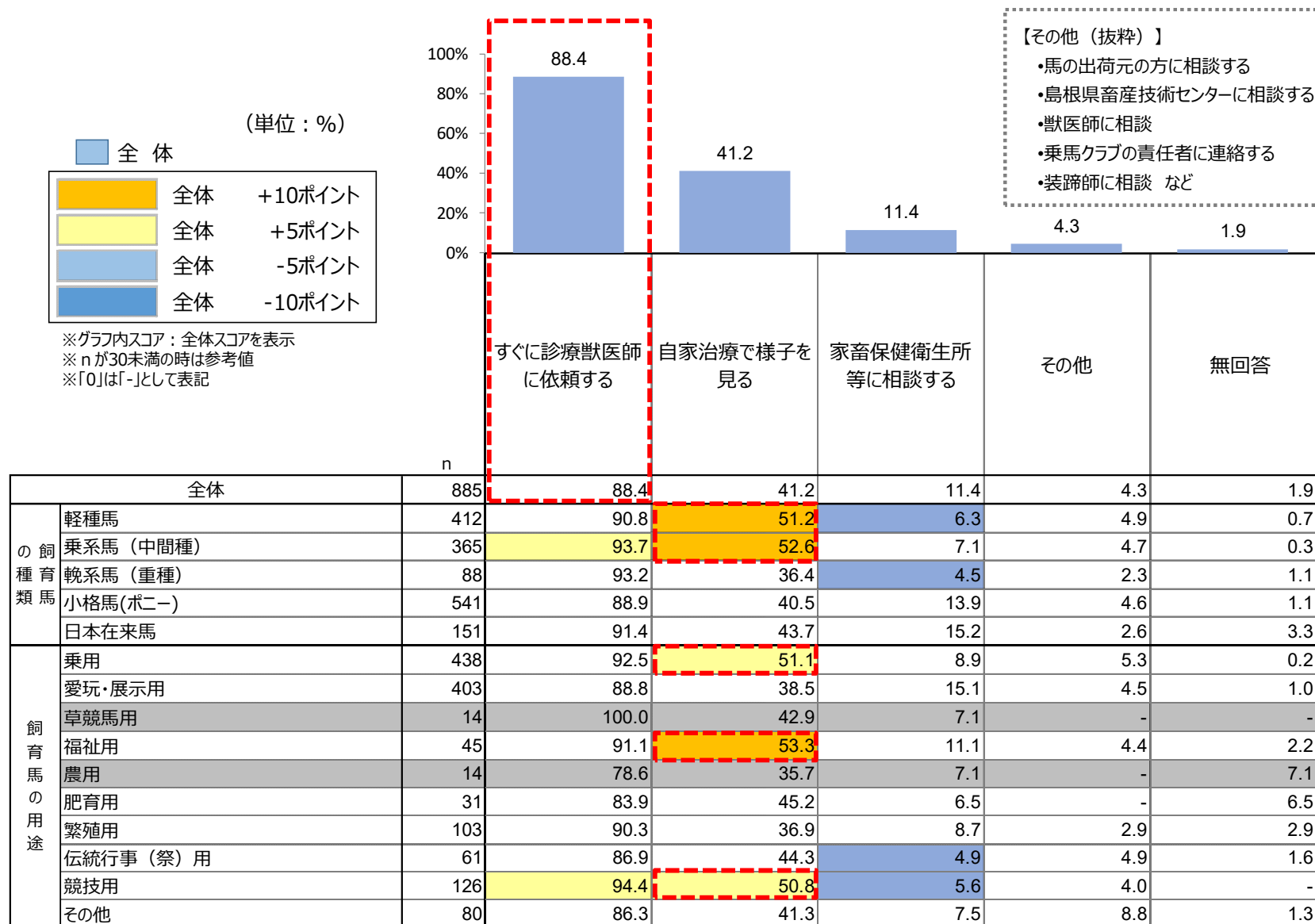
		n	馬房にいるときの馬の様子を観察	餌を与えた際の食欲等を確認	馬房から出した時の症状を確認	馬房から出して運動を始めたときに異常があるか確認	馬に触り体温、発汗等を確認する	大体知っているが人に説明できるほどではない	その他	無回答
全体		885	95.0	93.1	85.1	81.1	76.9	9.7	6.0	1.5
の飼育種類馬	軽種馬	412	98.8	96.1	95.9	92.2	90.5	6.3	5.6	0.5
	乗系馬（中間種）	365	98.4	94.2	95.6	93.4	88.5	6.6	6.0	0.3
	軽種馬（重種）	88	95.5	93.2	80.7	68.2	69.3	19.3	8.0	-
	小格馬(ポニー)	541	95.7	94.1	83.0	79.9	76.3	8.9	5.9	0.9
	日本在来馬	151	92.7	92.7	86.8	81.5	77.5	6.0	10.6	3.3
飼育馬の用途	乗用	438	98.4	96.3	96.8	94.5	90.2	7.1	5.9	0.2
	愛玩・展示用	403	95.5	94.5	82.6	78.2	75.7	7.7	4.7	0.5
	草競馬用	14	100.0	100.0	78.6	78.6	78.6	14.3	7.1	-
	福祉用	45	93.3	91.1	84.4	80.0	68.9	11.1	4.4	2.2
	農用	14	92.9	92.9	85.7	78.6	71.4	21.4	14.3	7.1
	肥育用	31	100.0	90.3	77.4	48.4	54.8	9.7	-	-
	繁殖用	103	92.2	90.3	85.4	72.8	66.0	16.5	9.7	1.0
	伝統行事（祭）用	61	100.0	95.1	86.9	85.2	78.7	27.9	4.9	-
	競技用	126	100.0	97.6	97.6	95.2	91.3	4.8	4.8	-
	その他	80	96.3	97.5	83.8	82.5	82.5	7.5	11.3	1.3

# 飼育馬に異常が認められた場合の対応方法

- 飼育馬に異常が認められた場合の対応方法は、「すぐに診療獣医師に依頼する」が88%。次いで「自家治療で様子を見る」が41%で続く。「家畜保健衛生所等に相談する」は11%にとどまる。
- 種類別にみると、『軽種馬』『乗系馬（中間種）』では、「自家治療で様子を見る」方がやや多い傾向。
- 用途別では、『乗用』『福祉用』『競技用』で、「自家治療で様子を見る」が全体より10pt前後高い。

n=全体（単位：%）  
※全体スコアにて降順ソート

Q8. 飼育馬に異常が認められた場合、どのように対応していますか。（複数選択可）



---

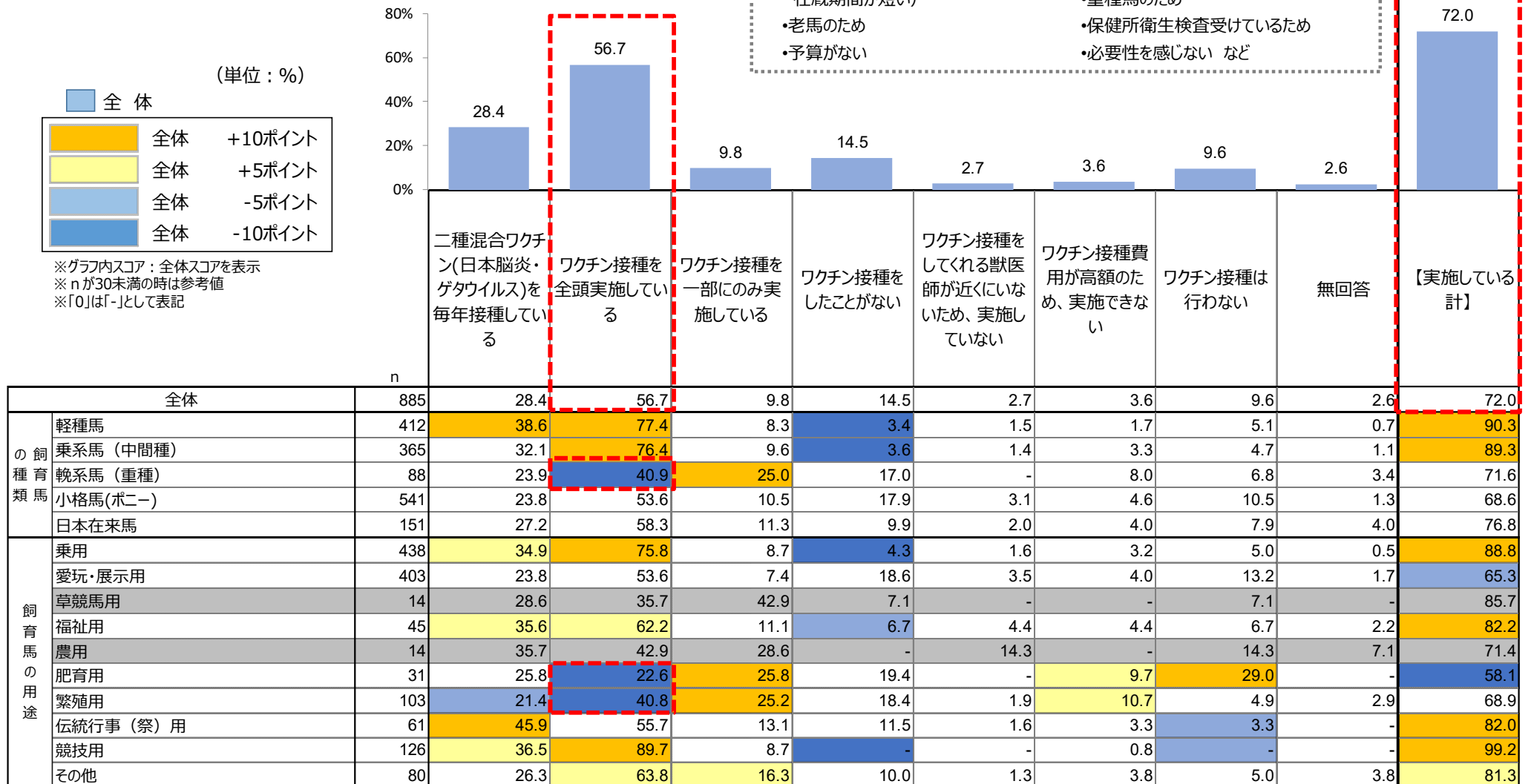
## 4. ワクチン接種状況と講習会に期待すること

# ワクチン等の予防管理の実態

- ワクチン等の予防管理は、「ワクチン接種を全頭実施」が57%。「ワクチン接種を実施している計」は72%。
- 種類別にみると、『輓系馬（重種）』の「ワクチン接種を全頭実施している」が41%と特に低い。
- 用途別では、『肥育用』『繁殖用』で「ワクチン接種を全頭実施している」が全体より10pt以上低い。

n=全体（単位：%）

Q9. ワクチン等の予防管理についてお選びください。（複数選択可）



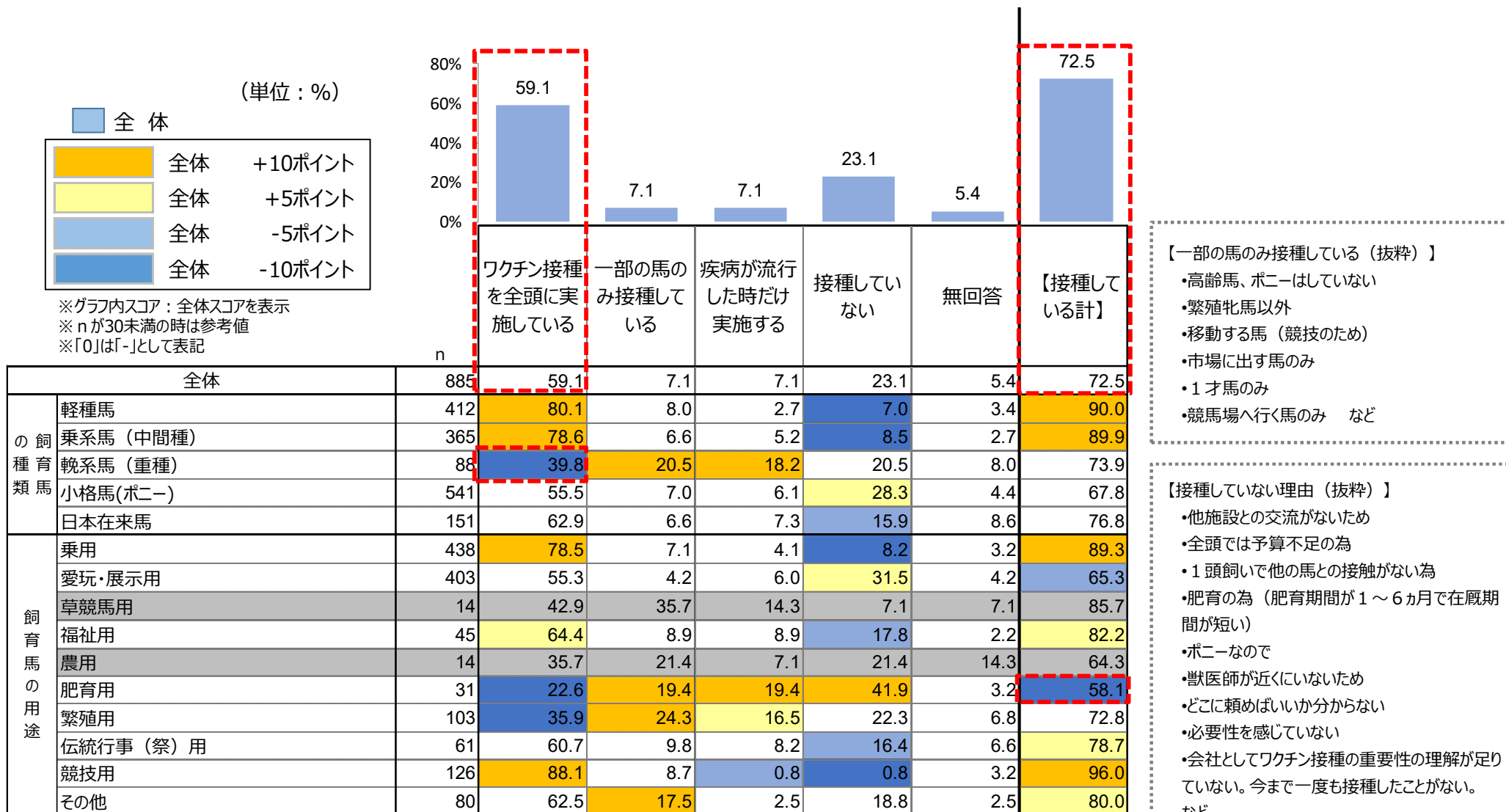
※実施している計 = 「二種混合ワクチン(日本脳炎・ゲタウイルス)を毎年接種している」 + 「ワクチン接種を全頭実施している」 + 「ワクチン接種を一部にのみ実施している」

# 馬インフルエンザワクチンの接種状況

- 馬インフルエンザの接種状況を見ると、「ワクチン接種を全頭に実施している」は59%。「ワクチンを接種している（計）」では73%。
- 種類別にみると、『純系馬（重種）』の「ワクチン接種を全頭に実施している」が40%と特に低い。
- 用途別では、『肥育用』の「ワクチン接種率（接種している計）」は58%で全体より10pt以上低い。

Q10. 馬インフルエンザワクチンの接種についてお選びください。（複数選択可）

n=全体（単位：%）



【一部の馬のみ接種している（抜粋）】

- 高齢馬、ポニーはしていない
- 繁殖牝馬以外
- 移動する馬（競技のため）
- 市場に出す馬のみ
- 1才馬のみ
- 競馬場へ行く馬のみ など

【接種していない理由（抜粋）】

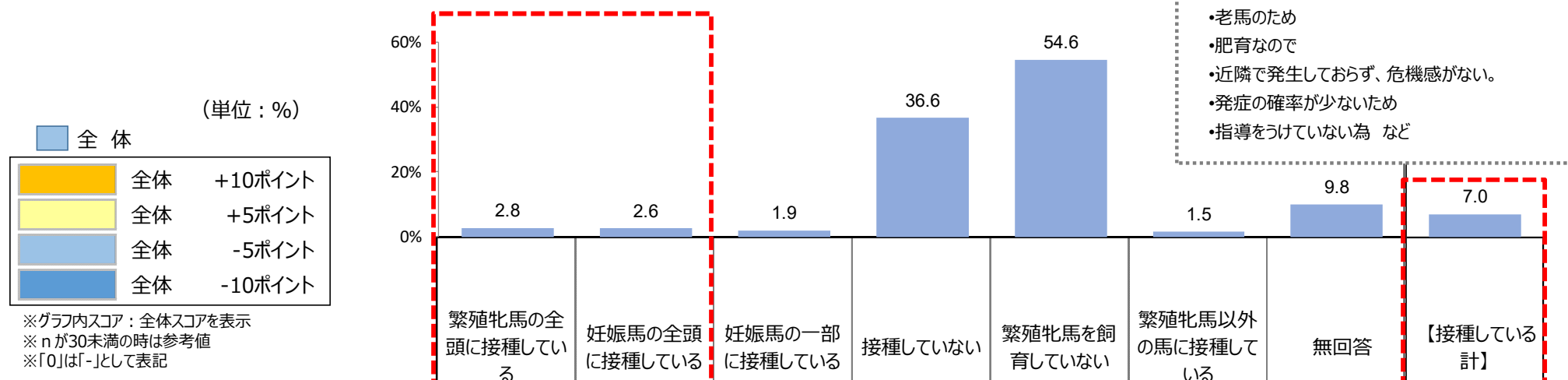
- 他施設との交流がないため
- 全頭では予算不足のため
- 1頭飼いで他の馬との接触がないため
- 肥育のため（肥育期間が1～6ヵ月で在厩期間が短い）
- ポニーなので
- 獣医師が近くにいないため
- どこに頼めばいいかわからない
- 必要性を感じていない
- 会社としてワクチン接種の重要性の理解が足りていない。今まで一度も接種したことがない。など

※接種している計＝「ワクチン接種を全頭に実施している」＋「一部の馬のみ接種している」＋「疾病が流行した時だけ実施する」

# 馬鼻肺炎ワクチン(流産予防)の接種状況

- 頭数や接種時期に関わらず、馬鼻肺炎の「ワクチンを接種している」と回答した方は7%。「繁殖牝馬の全頭に接種している」方は2.8%、「妊娠馬の全頭に接種している」方は2.6%という結果。繁殖牝馬への馬鼻肺炎ワクチン接種は浸透していない様子がうかがえる。
- 用途別でみると、『繁殖用』では【接種している計】が46%と高め。

Q11. 馬鼻肺炎ワクチン(流産予防)についてお選びください。(複数選択可)



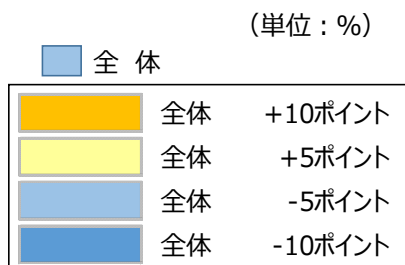
全体		n	繁殖牝馬の全頭に接種している	妊娠馬の全頭に接種している	妊娠馬の一部に接種している	接種していない	繁殖牝馬を飼育していない	繁殖牝馬以外の馬に接種している	無回答	【接種している計】
全体		885	2.8	2.6	1.9	36.6	54.6	1.5	9.8	7.0
の飼育種類馬	軽種馬	412	2.7	2.7	1.2	26.7	68.4	1.7	8.5	6.3
	乗系馬(中間種)	365	4.4	3.0	1.4	30.1	64.9	1.9	6.3	7.9
	軌系馬(重種)	88	4.5	8.0	13.6	39.8	28.4	-	8.0	26.1
	小格馬(ポニー)	541	2.6	2.2	1.1	40.7	55.6	1.1	7.8	5.5
	日本在来馬	151	-	3.3	0.7	37.7	49.0	1.3	13.9	4.0
飼育馬の用途	乗用	438	2.7	2.3	0.9	29.0	68.5	1.6	6.8	5.5
	愛玩・展示用	403	2.2	1.0	1.0	40.9	58.3	1.5	7.7	4.0
	草競馬用	14	-	-	14.3	14.3	64.3	-	7.1	14.3
	福祉用	45	-	-	-	35.6	64.4	-	8.9	-
	農用	14	7.1	28.6	-	28.6	28.6	-	7.1	35.7
	肥育用	31	6.5	6.5	9.7	48.4	25.8	-	9.7	22.6
	繁殖用	103	14.6	18.4	14.6	45.6	1.9	1.9	7.8	45.6
	伝統行事(祭)用	61	1.6	4.9	3.3	31.1	47.5	1.6	16.4	9.8
	競技用	126	3.2	4.8	2.4	23.0	69.0	1.6	7.1	9.5
その他	80	6.3	2.5	2.5	38.8	46.3	2.5	10.0	11.3	

# 馬の飼養衛生管理に関する講習会等で聴いてみたい内容

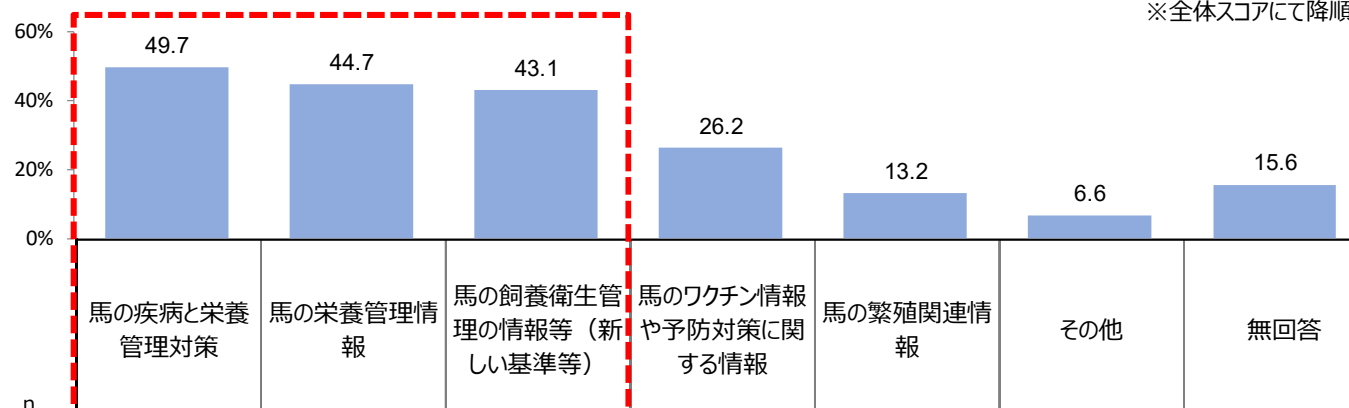
- 馬の飼養衛生管理に関する講習会等で希望する内容の上位は、「馬の疾病と栄養管理対策」が50%、「馬の栄養管理情報」が45%、「馬の飼養衛生管理の情報等」43%であった。
- 用途別でみると、『肥育用』『繁殖用』では、「馬の疾病と栄養管理対策」「馬の栄養管理情報」「馬の飼養衛生管理の情報等」など衛生管理への関心が低い様子が見られる。一方で「繁殖関連情報」への関心は高い。

Q12. あなたが、馬の飼養衛生管理に関する講習会等で聴いてみたい内容についてお選びください。（複数選択可）

n=全体（単位：％）  
※全体スコアにて降順ソート



※グラフ内スコア：全体スコアを表示  
※nが30未満の時は参考値  
※「0」は「-」として表記



全体		n	馬の疾病と栄養管理対策	馬の栄養管理情報	馬の飼養衛生管理の情報等 (新しい基準等)	馬のワクチン情報や予防対策に関する情報	馬の繁殖関連情報	その他	無回答
の飼育種類馬	軽種馬	412	56.3	55.8	49.8	29.4	9.0	6.1	12.1
	乗系馬 (中間種)	365	57.3	56.2	51.0	26.6	15.1	5.8	10.4
	軌系馬 (重種)	88	39.8	33.0	37.5	26.1	44.3	6.8	15.9
	小格馬(ポニー)	541	52.7	45.1	43.8	28.3	12.6	6.1	15.2
	日本在来馬	151	54.3	43.0	46.4	21.2	11.9	8.6	15.9
	乗用	438	57.8	56.4	50.0	29.2	12.1	5.7	9.6
飼育馬の用途	愛玩・展示用	403	52.1	43.9	43.4	26.3	10.2	6.9	15.6
	草競馬用	14	35.7	35.7	50.0	28.6	21.4	-	28.6
	福祉用	45	55.6	57.8	46.7	26.7	8.9	2.2	11.1
	農用	14	28.6	35.7	28.6	21.4	35.7	7.1	14.3
	肥育用	31	38.7	22.6	25.8	25.8	35.5	12.9	25.8
	繁殖用	103	41.7	31.1	32.0	29.1	51.5	3.9	18.4
	伝統行事 (祭) 用	61	49.2	39.3	47.5	31.1	18.0	3.3	13.1
	競技用	126	61.1	56.3	52.4	27.8	12.7	3.2	12.7
	その他	80	47.5	43.8	40.0	26.3	16.3	16.3	16.3

## 【その他 (抜粋)】

- 与えていい草、ダメな草 飼料高騰でマメ科、アブラナ科以外避けた方がいい草はどれか知りたい
- 蹄葉炎罹患馬の適切な飼育管理
- 高齢馬の飼養管理・栄養管理情報
- その年の馬の伝染病等の発生件数と場所。
- 個人で子供たちの動物とのふれ合いのためにポニーを飼育していますので、個人ができる衛生管理が知りたいです。
- 蹄の病気、装蹄について、馬の解剖学、馬の行動学
- なぜ感染対策が必要なのか 最悪どんな事が、起りうるのか など

---

## 5.2016年度～2022年度 頭数・用途・導入元・年齢把握



- 「軽種馬」の割合がやや増加傾向にある一方で、「挽系馬」の飼育割合は減少傾向にある。
- 日本在来馬の飼育割合を直近3年でみると、大きな変動はみられず、品種の内訳をみても、「北海道和種」が過半数を占め、「木曽馬」「トカラ馬」が続くという傾向に変わりはない。2019年度は「木曽馬」と「トカラ馬」が同水準。

Q3-1. 飼育馬の頭数についてお伺いします。馬の種類ごとに頭数をご記入ください。

(n; 回答頭数ベース) (単位: %)

n		軽種馬	乗系馬 (中間種)	挽系馬 (重種)	小格馬 (ポニー)	日本在来馬	その他
2022年度 全体	15,158	↑ 61.1	16.1	↓ 8.7	9.4	4.7	*
2021年度 全体	14,537	51.7	17.4	15.6	10.4	5.0	*
2020年度 全体	14,787	60.6	17.4	5.7	11.4	4.9	*
2019年度 全体	13,271	43.8	14.1	23.6	9.9	3.7	4.9
2018年度 全体	8,611	41.9	17.0	19.5	15.2	5.2	1.2
2016・2017年度 全体	20,070	51.4	14.9	16.2	11.5	4.3	1.7

■ 各年度1位のスコア ■ 各年度2位のスコア ■ 各年度3位のスコア

\*) 該当調査において選択肢がなかったもの

Q3-2. 日本在来馬を飼育されている方へ、前設問の頭数の内訳についてお伺いします。  
日本在来馬の頭数を品種別にご記入ください。

(n; 日本在来馬・回答頭数ベース) (単位: %)

n		①北海道 和種	②木曽馬	③野間馬	④対州馬	⑤御崎馬	⑥トカラ馬	⑦宮古馬	⑧与那国 馬	その他	無回答
2022年度 全体	712	59.0	13.3	2.5	8.3	0.6	10.0	1.1	4.8	*	0.4
2021年度 全体	725	64.3	13.5	0.6	7.6	0.6	8.3	-	3.0	*	2.2
2020年度 全体	729	58.4	14.8	0.4	8.1	0.4	8.8	-	6.4	*	2.6
2019年度 全体	486	66.0	15.2	0.6	1.4	0.6	15.6	-	0.4	*	*
2018年度 全体	451	50.1	10.6	0.4	11.1	-	0.7	-	4.4	22.6	*
2016・2017年度 全体	854	54.4	13.6	0.8	6.3	0.4	12.1	-	3.2	9.3	*

■ 各年度1位のスコア ■ 各年度2位のスコア ■ 各年度3位のスコア

\*) 該当調査において選択肢がなかったもの

- ▶ 「肥育用」の割合が昨年に比べてやや減少している。「その他」の割合が選択肢の中で2番目に多いため、来年度の調査では自由記述の回答欄を設け、詳細を把握することも検討されたい。
- ▶ 導入元は例年概ね同傾向である。2022年度のその他の詳細をみると、「知人から」「個人所有」「観光牧場」「家畜商」などの回答が複数件見られる。

(n;回答頭数ベース) (単位: %)

Q3-3. 過去1年間における用途別頭数について、すべてご記入ください。

n		乗用	愛玩・展示用	草競馬用	福祉用	農用	肥育用	繁殖用	伝統行事(祭)用	競技用	その他
2022年度 全体	16,595	44.0	6.6	0.4	0.9	0.4	↓ 11.1	9.6	0.9	10.3	15.8
2021年度 全体	15,022	48.7	7.9	1.0	1.2	0.2	20.0	4.1	0.9	9.8	6.2
2020年度 全体	14,563	48.9	8.8	0.2	1.2	0.2	16.1	5.8	1.1	9.0	8.8
2019年度 全体	13,786	45.2	7.5	0.2	0.6	0.1	30.5	3.9	1.2	1.2	9.7
2018年度 全体	8,937	57.8	10.5	0.8	1.2	1.2	18.9	4.7	0.8	*	4.0
2016・2017年度 全体	20,070	49.6	7.9	0.5	0.7	0.1	19.7	7.7	*	*	13.8

■ 各年度1位のスコア ■ 各年度2位のスコア ■ 各年度3位のスコア

\*) 該当調査において選択肢がなかったもの

Q4. 飼育馬の導入元について、あてはまるものをお選びください。(複数回答可)

n=全体 (単位: %)

n		中央競馬	公営(地方)競馬	乗馬クラブ	家畜市場	育成牧場	輸入	自家生産	その他	無回答
2022年度 全体	885	19.5	21.8	42.0	13.2	15.5	12.1	21.8	23.7	1.9
2021年度 全体	969	21.3	23.3	41.5	12.6	17.0	14.7	19.4	23.7	2.6
2020年度 全体	1,023	24.5	24.5	41.7	15.2	14.7	14.8	20.0	24.3	2.9
2019年度 全体	746	20.6	21.2	40.6	14.6	20.4	13.3	22.0	23.1	2.4
2018年度 全体	664	17.6	18.4	40.5	15.5	16.3	13.9	21.7	23.6	1.2
2016・2017年度 全体	2,129	10.2	11.2	22.3	9.6	10.9	7.5	13.2	15.1	*

■ 各年度1位のスコア ■ 各年度2位のスコア ■ 各年度3位のスコア

\*) 該当調査において選択肢がなかったもの

➤ 飼育馬の年齢の把握実態も例年同傾向である様子がうかがえる。

n=全体（単位：％）

Q5. あなたの飼育馬の年齢の把握について、あてはまるものをすべてお選びください。（複数回答可）

	n	年月日等の記録から全頭又はほとんどの馬の年齢を把握している	年齢条件の記録があれば把握できるが、導入馬等で記録のない馬は把握していない	年齢は把握していない	年齢の記録のない馬については、歯型等から推定し把握している	無回答
2022年度 全体	885	84.3	9.6	5.6	5.4	1.0
2021年度 全体	969	83.0	12.1	4.4	5.4	1.9
2020年度 全体	1,023	83.6	9.8	5.9	6.1	2.2
2019年度 全体	746	82.3	12.6	7.0	9.4	1.7
2018年度 全体	664	83.0	10.5	8.0	6.8	0.8
2016・2017年度 全体	*	*	*	*	*	*

■ 各年度1位のスコア ■ 各年度2位のスコア ■ 各年度3位のスコア

\*) 該当調査において選択肢がなかったもの